れまで ALN が作り上げてきた成果を、他の人々の協力の下に発展させていきたい。

②の段階での評価には、2001 年と 2006 年のコンドーム使用に関する調査結果が参考になる。昨年も指摘したことであるが、5 年間の間に大きな改善が見られた。すなわち、コンドーム使用率は格段に上昇したのである。ALN の活動が一部貢献していると推定される。なぜなら、調査対象になった MSM はいずれも商業施設を利用する人々であったからである。

しかしながら、医療機関を受診する MSM の数は減少するどころか、増加の一途を辿っている。予防対策が効を奏すれば、最初にはまずエイズ患者数の減少を伴う感染者の増加が期待される。なぜなら、HIV 関連情報を理解すれば、受検行動へとつながるからである。しかし、名古屋医療センターの調査結果を見ても、いまだこの時期にも到達していないことが明らかになる。受検行動が促されれば、早期診断すなわち CD4 値の高い時期での診断が可能となるが、この点でもまだ十分な成果が挙げられていない。検査会受検者の増加、コンドーム使用率の改善、と我々の活動の成果を推測させる結果も一方では存在するが、まだまだ最終的なところでの成果は十分ではないと考えなければならない。

ではどうするか。現在の活動を維持発展させつつ、新たな視点からの予防対策の立案が必要になろう。

その新たな視点を獲得するための方法として、HIV 陽性者の属性解析を行うことと、彼らの声に耳を傾けることだろうと思う。今年度はその第一弾として、MSM で HIV 陽性者である 83 名の受検状況の調査を行った。83%の新規陽性者が初回検査で HIV 陽性と診断されている。ここに検査の重要性が物語られていると思う。自己判断で検査を受けた人が 69%と大半をしめたが、なお 31%の人々が自己判断以外の経緯で診断をされている。検査を受けることの敷居は高いと思われる。陽性と診断された場合の厳しさを思うと、当然と言わねばならない。しかし、エイズを発症した場合の厳しさをも同時に知るものとしては、できるだけ早期の検査を可能とする道を探ることになる。検査環境の改善、機会の増大、診断後の医療の充実、社会的差別の解消、など課題は大きいが、解決に向けた努力をしなければならない。

MSM を対象にした無料 HIV 検査会は上記課題を解決するひとつの試みと考える。検査機会増やすことにつながるし、受検者の声を聞くことによって検査環境の改善を目指すことも可能となる。また、保健所の職員を含む多くのボランティアの参加は、日常の予防もしくは検査業務に資することになると信ずる。

HIV 陽性者の声を聞き、その属性を知ることによって、予防活動のターゲットをどこにすべきか、またその方法はどのようにあるべきかの課題に迫ることができる。コンドーム使用率が改善しているにもかかわらず新規 HIV 陽性者が増加する乖離減少の解明にもつながると考えられる。次年度の研究課題である。

最後にエイズ学習について考察する。知識や情報を身につけていても、それが行動につながらないという現象がある。今回行動変容につながる学習方法を目指し、大学生のゼミにエイズ学習を取り入れた。もちろん専門の教育心理学者の指導の下に行った。学習方法は小グループにわかれ、それぞれのグループがエイズに関するサブテーマを主体的に選択し、14 時間の演習時間を使って調査とまとめと発表を行うものである。指導者は学習の方向性を定めたり、調査の資料を提供したりするのみで、基本的には助言者の立場をとり、グループのメンバー自身が情報交換をしながらひとつのテーマに関するまとまった論述を作り上げるのである。詳細は結果の項に掲げた参考論文を参照されたい。学生のレポートの解析から、学習終了時にはエイズ関連情報

を広い範囲にわたって獲得するとともに、学習前とくらべて HIV/エイズに対する考え方の大きな変化が見られ、行動変容につながる可能性が示唆された。この学習の特徴は、その背景に人格的な交流が存在することである。すなわち、知識の獲得の過程の中にお互いの交流と言う人間的体験が裏打ちされている点が特徴的である。こうした人間的交流と言う体験を伴う学習は、単なる情報の記憶とは異なり、行動への影響を伴った生きた学習になることが期待される。我々の勉強会にも取り入れて行きたいと思う。

E. 結語

我々の予防啓発活動は、一定の成果を挙げつつも、新規 HIV 陽性者が増加している今日、十分な効果を発揮したとは言うことができない。現在の活動を維持、発展させながら、新たな視点による活動を展開させなければならない。新たな視点は、HIV 陽性者の声の中に、また他の地域の活動の中に存在する。今後は両者から学んでいかねばならない。

F. 発表論文等

国内学会発表

1) 金子典代、内海　眞、市川誠一：東海地域在住の MSM の HIV 抗体検査受検行動と HIV 検査体制へのニーズの実態，第 21 回日本エイズ学会学術集会・総会，2007 年 11 月 28 日，広島
2) 内海　眞、市川誠一、菊池恵美子、浜口元洋：MSM を対象に名古屋における無料 HIV 抗体検査会，第 21 回日本エイズ学会学術集会・総会，2007 年 11 月 28 日，広島
3) 菊池恵美子、内海　眞、浜口元洋：名古屋医療センターにおける 2006 年新規 HIV 陽性 MSM 患者動向，第 21 回日本エイズ学会学術集会・総会，2007 年 11 月 28 日，広島

厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策研究事業
男性同性間のHIV感染対策とその評価に関する研究

大阪地域における同性間のHIV/STI感染予防啓発の普及促進に関する研究

分担研究者：鬼塚哲郎（京都産業大学）
研究協力者：山田創平、辻　宏幸、後藤大輔（財団法人エイズ予防財団）、内田　優、鍵田いずみ、塩野徳史、町登志雄、中村英芳、原澤俊也、川合亮、祝　雄一、大畑泰次郎（MASH大阪）、木村博和（横浜市健康福祉局）、金子典代、ジェーン・コーナ、大森佐知子（名古屋市立大学大学院）、日高庸晴（京都大学大学院）、市川誠一（名古屋市立大学）

研究要旨

平成19年度、MASH大阪は以下のような研究事業を実施した。

1. 以下の介入プログラムを執行した：1)コミュニティレベルのプログラムとして、①コミュニティペーパー＜SaL+＞の発行と効果評価：2)グループ・個人レベルのプログラムとして①コミュニティスペース＜dista＞関連事業の執行と効果評価：②STI勉強会＜Café Chat＞の執行とプログラムスタッフへのインタビュー調査（別稿参照）：③若年層ネットワーク構築支援プログラム＜Step＞の再開。
2. 効果評価の基礎データを得るため、前年度の堂山地区にアクセスするMSM集団規模調査に引き続き、本年度はミナミ地区、新世界地区において同様の調査を実施した。その結果、ミナミ地区にアクセスするMSM母集団の規模を14,500人、新世界地区にアクセスするMSM母集団の規模を6,500人と推定した。
3. 平成17年度に引き続きバー顧客層を対象とした精密調査を実施した。1759部を配布し、回収数は1079部であった（別稿参照）。

A. 研究目的

本研究の目的は、平成19年度に執行された研究事業を記述・分析し、効果評価と照合することで、個別施策層向け予防介入事業のモデル構築を試みるところにある。

B. 研究方法

本研究の対象は2006年度にMASH大阪によって執行された予防介入プログラムであり、後述する効果評価の結果と比較検討したうえで考察を加える。比較検討、考察にあたっては、疫学とその周辺領域のみならず、組織論、ソーシャルマーケティング理論、社会学といった広い領域からの言及を行うこととする。

C. 研究結果

各プログラムの執行状況について順次報告する。

1. コミュニティペーパー＜SaL+＞の配布

（これまでの流れ）

2000ー2002年度に開催された臨時検査イベントSWITCHを通して得られた情報をコミュニティに還元するためのツールとして構想されたSaL+は、2003年度に入りコミュニティペーパー的性格を強めながらコミュニティに浸透してゆき、2004年度実施したフォローアップ調査

の結果、関連知識、受検行動、予防行動のいずれにおいても、受取り群には非受取り群と比較して有意な効果がもたらされたことが示唆された。

(プログラムの目的)

・MASH大阪が把握している情報をコミュニティに還元する。
・配布活動を通じて、コミュニティとのネットワークを構築する。
・地域に密着した情報を発信し共有化をはかることで、コミュニティへの帰属意識を涵養する。

(配布実績)

今年度の配布実績を別表1に掲げる。

(途中経過および今後の展望)

配布は順調に推移した。「コミュニティ関連情報」と「セクシュアルヘルス関連情報」のバランスもほぼ定着した。

従来、SaL+の発行部数は毎月7000部であり、そのほとんどはゲイタウンや団体への配布であった。2007年10月からは、配布先の増加などもあり1000部増刷している。

SaL+に関しては現在、ヴァージョンアップの必要性が議論されている。ヴァージョンアップされたSaL+については、HIV感染の広がりや受検行動の低さなどが懸念されている中高年のMSMにもアピールするものが求められる。今年度は現行のSaL+と平行しながら、ヴァージョンアップされたSaL+を発行するためのエビデンス収集や、準備を継続していくための体制作りを含めたプログラムの再構築を行う。

2. STI勉強会

(事業の目的)

Café Chatとはエロネタなどを中心に身近で興味を持てるようなテーマを設定し、一義的な展開や啓発的メッセージを強調するのではなく、カフェ形式のリラックスした雰囲気の中、参加者それぞれが、自らの言葉で意見、情報を交換し、多様な性や生活のあり方を認め合いその雰囲気を共有するものである。それと並行して毎回プログラムの最後にSTIやセーファーセックスについての豆知識を持ち帰ってもらえるようなミニ勉強会を設け、すぐそばにある性感染症の存在に目を向け、予防と共生の意識を浸透させることを目指すプログラムである。

(事業の手法)

手法として以下の点を挙げることができる。

・ファシリテーターを設け対話形式での展開を行なう。参加者が楽しんで取り組めるようテーマに沿った資材やゲーム等を使用。
・Café Chatを問題なく円滑に進行させるためグランドルールを設ける。
・参加者が意見を発し、取り組みやすいような場所の設定をする。(カフェ形式etc)
・プログラムの最後15分程度にSTI勉強会を設ける。(毎月解説情報を設定)

特に必要な情報として「感染症/経路/症状/対応/検査」「セーファーセックス/行為」「コンドーム/セックスの道具/使い方/入手方法」を盛り込むこととした。今年度の6月から奇数月では毎月第2土曜日の夜間20時～22時に意見交換と15分程度の勉強会を実施し、22時以降は翌朝5時までフリートークのCafé へ移行。引き続き対話の場を設けることに留意した。偶数月ではSEXを想起させるカフェをコンセプトとしたものを運営。時間は夜間の20時～翌3時頃までとし、奇数月のように時間を設定せず、カフェ来場者がいつでも参加できるような資材等を準備し、スタッフや来場者同士が意見交換できる場を設定することに留意した。広報としてSaL+での告知、step 参加者などによる口コミ、mixi等を用いた。

(プログラムの効果)

プログラムの効果として以下の点を挙げることができる。

・エロネタを中心としたテーマ設定は参加者の興味をひき、取り組み易く、運営もスムーズであった。また、持ち帰ったり実践したりできるような資材やゲーム等を提供するこ

との有意性が感じられた。

・15分程度の勉強会を設けることで、必要な情報を的確に伝えやすく、参加者への意識づけの可能な機会となった。

偶数月のカフェ形式をとることで、来場者を広く取り込み、SEXについて語るという場を醸成することが可能となった。

・コミュニティスペースdistaの利用者や少人数に対する運営は成功したが、今後新規クライアントの獲得を目指す場合の広報の手法、運営方法の検討が必要であると思われる。

なお、2007年度3月から実施したプログラムを別表2に示す。

3. ドロップインセンター<dista>

（事業の目的）

大阪地域のゲイ男性が利用する商業施設が多い地域に啓発普及の活動拠点を整備・運営し、HIV/STI感染予防に向けた啓発プログラムを戦略的に展開することを事業の目的とする。ドロップインセンターの機能は以下のとおり。

予防啓発事業の拠点機能として

・啓発活動およびアウトリーチのベース基地（啓発の実施・普及機能）

・予防啓発に関わるスキル研修会・講習会会場（人材育成機能）。今年度はUCSF疫学研究者とセッションを持った。

・セーファーセックス勉強会・ワークショップ会場（啓発普及機能）

情報センター機能として

・コミュニティの人がふらっと自由に立ち寄れて、セクシュアルヘルスに必要な情報やコミュニティの情報を持ち帰ることができる（情報の還元・普及機能）

・相談場所・窓口（相談機能）

コミュニティセンター機能として

・ コミュニティ交流プログラム会場（地域交流機能）

・ コミュニティからのリアクションをフィードバックさせる（情報収集機能）

・ リピーターを獲得し、その人達と相互に確実な情報伝達くりかえすことによって、コミュニティ内のキーパーソンの育成をはかる。

（対象クライアント）

対象クライアントとして以下を想定した。

1. ゲイ関連施設従業員
2. ゲイ関連施設利用者
3. インターネット利用者
4. エイズ対策関連団体/人

（成果目標）

成果目標として以下を想定した。

・ 当事者性を重視した予防啓発活動を、コミュニティの中心エリアで実施し、コミュニティメンバーや関係機関との連携・協働により、セクシュアルヘルスの増進、セーファーセックスへの環境づくりを目指す

・ distaを核としたコミュニティ・ネットワークを構築し、そのネットワークを通じてHIV/STIの予防や共生のメッセージと正しい情報が伝わってゆくことを目指す。

・ 情報と空間・時間を共有し、HIVを身近に感じる人が増えていくことで、HIV/AIDSの予防と共生の意識がコミュニティ全体に広がり、行動変容を促すことを目指す。

（運営体制）

2007年度は基本オープン時間を火曜日～金曜日および日曜日17：00ー23：00、土曜日17：00ー05：00とし、月曜日を休館日とした。来場者に対応するスタッフとしてのコンシェルジュをリクルートし、9人のボランティアに対して養成プログラムを試行した。

相談対応可能なスタッフが常駐し、すべての来場者への対応と記録を行った。

（効果評価）

事業実施記録、バー利用者調査により、プログラム効果の評価を行う。

主な評価指標は、来場者数、dista認知度、相談件数、予防意識および行動の変容など。

利用者数、利用者数の年度別推移、相談件数の推移、イベント参加者数などは、以下別表3～別表6に詳細を示す。

（事業成果）

来場者数は、2008年1月の時点では前年度比約1.1倍で昨年度とほぼ同程度となっている。リピーターが新たな来場者を連れてくる傾向は前年度と同様に見られ、ネットワーク形成の進展は続いていると思われる。

来場者のうち「ふらっと来た人」の中の初来場者は前年度比で1.1倍の増加であるのに対し、イベント来場者中の初来場者は前年度比で0.6倍と減少している。これはイベントの内容や広報を検討する必要を示唆していると考えられる。

相談事業を行う体制が少しずつ整いつつあるが、相談サービスを提供するスタッフのスキルアップが必要であり、またdistaでは対応しきれないケースが発生した場合の連携先の確保などを検討中である。

4. 若年層ネットワーク構築支援プログラム＜step＞

（目的）

コミュニティにあまりアクセスしていない10～20代の若者をターゲットとしたプログラムである。プログラムの目的として以下の点が考慮されている。

- コミュニティやMASH大阪に未接触の若者に対する入り口となること
- 参加者がdistaにアクセスするようになること
- 他のプログラムへのボランティア・リクルートの入り口になること

（目標）

事業目標として、以下の点を挙げる。

- 啓発色をださず、季節感やお得感、遊びに行く、楽しむ、友達作りなどのが企画を実施する。
- コミュニティスペース dista へアクセスするきっかけを提供する。
- mixi（大手のソーシャルネットワーキングサイト）を中心とした広報宣伝を行う。
- プログラムに関わるスタッフの友人のであまり情報に触れていないクライアントを主なターゲットとする。
- 企画運営実行は主にコミュニティの若者が中心に行うものとする。

（2007年度活動実績）

今年度は5回のプログラムを実施した（3月ー12月現在）。別表7に今年度の活動実績を整理する。

（プログラムの成果）

プログラムの成果として以下の点を挙げることができる。

- 初めてゲイに会うという人や、これまでコミュニティと関わりを持ってこなかった人が、step を入り口としてゲイ特有の施設・イベント等へ出向くようになる等、コミュニティとの関わりを持つようになった。
- dista へアクセスすることで、dista へ行きやすくし、同時に他のプログラムにも興味を持つようになった。
- 参加者やstepスタッフがSaL+のアウリーチや他団体への送付作業に参加した。（のべ56人／2007年4月～2008年2月）
- 参加者の多くが PLuS+のボランティアとして参加し、うち何人かはボランティアリーダーとして中心的な役割を果たした。
- コミュニティの若者の中から、プログラムを取り仕切る人が出るなど、今後を担うスタッフの育成に貢献した。
- そのほか様々なMASH大阪のプログラムへ参加する入り口となった。
- 参加者が MASH/dista について、街で話す・実際に dista へ連れてくるなどの広報に繋がった。

D. 考察

年度初頭に掲げた研究計画の項目にそって、研究事業の実施状況を総括する(別表8)。

E. 結論

1. 多少のばらつきはあるものの、プログラムはおおむね計画通りに継続された。コミュニティペーパーは中高年層の新たなニーズに応えることが望まれ、STI勉強会は次の展開を狙う位置にある。
2. ゲイタウン利用者層の規模調査が進展し、大阪地域でのクライアント像がより明確になった。
3. 課題として、バー精密調査の結果を次のプログラムの立案・執行にどう活かすか、新世界地区においてクライアントの開拓をどう進めるか、があげられる。

F. 発表論文等

(論文発表)

1) 鬼塚哲郎、辻宏幸：MASH大阪によるゲイコミュニティ向けHIV/STI予防活動，保健師ジャーナル，第61巻，第2号：184-188，2005
2) 鬼塚哲郎：ゲイコミュニティへの予防介入事業，その現状と課題，日本エイズ学会誌，第6巻，第3号：141-144，2004
3) 市川誠一，木村博和，鬼塚哲郎，松原新，佐藤未光，井戸田一朗：MASHによる啓発活動，総合臨床，50：2805-2810，2001
4) 山田創平：大阪市北区堂山町の系譜－性的表象と都市をめぐる試論－，京都精華大学紀要，31:155-169，2006
5) 鬼塚哲郎，山田創平：感染に脆弱な集団にどう予防介入するか～マイノリティ集団における一次予防、二次予防、三次予防のあり方を検証する，治療学，vol.42-no.5，2008（2008年5月刊行予定）

(口頭発表：2001年度～2006年度)

1) 厚生労働省 HIV 感染症の疫学研究班，MASH大阪，MASH東京，(財) エイズ予防財団：MSMにおけるHIV/STD感染とその予防に向けて，第15回日本エイズ学会総会サテライトシンポジウム，東京，2001.11.30
2) Garrett Prestage (Univ. of New South Wales)，河村昌伸 (Angel life NAGOYA)，鬼塚哲郎 (MASH 大阪)：ゲイコミュニティとAIDS，第16回日本エイズ学会総会シンポジウム，名古屋，2002.11.29
3) 木村博和，市川誠一，鬼塚哲郎，松原　新，辻宏幸：MSMに対する大阪地域でのコンドーム・アウトリーチの効果，第17回日本エイズ学会総会，神戸，2003.11.29
4) 木村博和，市川誠一，鬼塚哲郎，辻宏幸：大阪のMSM向け臨時HIV/STI検査・予防相談の3年目の受検者の特性，第62回日本公衆衛生学会総会，京都，2003.10.24
5) Onitsuka, T. Matsubara, A. Tsuji, H. Satoh, T. Kimura, H. Onizuka, N. Ichikawa, S.: Analysis on MASH-Osaka Project~the first HIV Prevention Intervention Project in Japan, the 6th International Congress on AIDS in the Asia and the Pacific, Melbourne, 2001.10.8
6) 鬼塚哲郎，市川誠一、他：大阪地域におけるMSMへのHIV/STD予防啓発のニーズとプログラム、第60回日本公衆衛生学会総会、香川、2001.11.01
7) 鬼塚哲郎、市川誠一、他：MASH 大阪・SWITCH2001における臨時予防相談・検査を実施して、第15回日本エイズ学会総会、東京、2001.12.01
8) 山田創平、鬼塚哲郎：MSM コミュニティの規模を推定するための社会地理学的研究－大阪市北区堂山町周辺を事例として－. 日本エイズ学会、2006年、東京.
9) 鬼塚哲郎、山田創平：市民公開講座「な

ぜ男性同性間でHIV感染は増えたかーその対策は何をどうしてきたか、そしてこれからどうして行くかー，大阪におけるエイズ対策～これまで，これから」日本エイズ学会，2006年，東京.

10) 中村英芳，内田優，金子典代，大森佐知子，土井信吾，鬼塚哲郎：コミュニティスペース“diata”における対話型HIV／STI予防啓発プログラムの実践に関する研究. 日本エイズ学会, 2006年, 東京.

11) 金子典代，大森佐知子，木村博和，辻宏幸，鬼塚哲郎，市川誠一：大阪地域の予防介入プログラムの評価とHIV感染予防行動の関連要因に関する研究. 日本エイズ学会，2006年，東京.

12) 北村広美，宇野賀津子，鬼塚哲郎，池上正仁：ボランティア活動を通じたHIV/AIDSに関する理解の促進～7th ICAAPの経験から～. 日本エイズ学会, 2006年, 東京.

13) 山田創平：非営利組織のソーシャルマーケティングーワークモティベーション理論を中心にー. エイズワーカーズ福岡年度総会，2006年，福岡.

14) 鬼塚哲郎：シンポジウム「セクシュアリティと人権～LGBTの課題にどう取り組むか，求められているのはコミュニティ？ネットワーク？～エイズ予防の経験から」大阪府立女性総合センター（ドーンセンター）共催事業, 2006年, 大阪.

15) 鬼塚哲郎，山田創平：パネルディスカッション「ゲイコミュニティへの予防をどう展開するか」大阪地域における同性間のHIV/STI感染予防啓発の普及促進に関する研究成果発表会，扇町公園 PLuS+実施会場，2006年，大阪.

（口頭発表：2007年度）

16) 山田創平：ボランティア・社会活動の意義と展望ーモティベーション理論を中心として，京都府健康対策室，エイズ市民ボランティア研修会，2007年，京都.

17) Sohei Yamada: A socio-geographical method for estimating MSM population accessing a Gay commercial area in Osaka, Japan for the purpose of developing HIV prevention education materials and programs, the 8th International Congress on AIDS in the Asia and the Pacific, Colombo, 2007.

18) Tetsuro Onitsuka: Gay community or MSM? Who should be the focus of our education and support program? , the 8th International Congress on AIDS in the Asia and the Pacific, Colombo, 2007.

19) 鬼塚哲郎, 岩川洋成, 松尾恵, 小山田徹, 佐藤知久，雨森信，鍵田いずみ，大野聖子，山田創平：京都府エイズ等性感染症公開講座，2007年，京都.

20) 高鳥毛敏雄，市橋恵子，木村博和，下内昭，山田創平，市川誠一：厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究推進事業国民向け研究成果発表会（関西地域でのエイズ予防の現状を考えるフォーラム），2007年，大阪.

21) Sohei Yamada: Socio-geographical Research for estimating MSM population in “Gay town” area in Japan, German-Japanese Scientific Panel against AIDS, Hiroshima, 2007.

22) Tetsuro Onitsuka: MASH-Osaka An example of one model for conducting HIV Prevention among Gay-communities in Japan, German-Japanese Scientific Panel against AIDS, Hiroshima, 2007.

23) 鬼塚哲郎, 辻宏幸, 塩野徳史, 後藤大輔, 鍵田いずみ，内田優，町登志雄，山田創平，市川誠一：“いきなりエイズ”をどう減らすかーHIV感染リスクに曝されている層への予防介入の実践ー，日本性感

染症学会・日本エイズ学会合同シンポジウム，2007年，東京.

24) 山田創平，鬼塚哲郎，中村英芳，町登志雄，塩野徳史，市川誠一： MSMコミュニティの規模を推定するための社会地理学的研究－大阪市浪速区恵美須東（新世界）地区、難波4丁目（ミナミ）地区を事例として，第 21 回日本エイズ学会，2007年，広島.

25) 大森佐知子，内田優，中村英芳，祝雄一，川合亮，原澤俊也，鍵田いずみ，塩野徳史，町登志雄，後藤大輔，辻宏幸，山田創平，鬼塚哲郎，市川誠一：MSM を対象としたグループレベルのHIV/STI予防啓発プログラムの評価に関する研究－プログラムスタッフへのインタビュー調査から－，第21回日本エイズ学会，2007年，広島.

26) ジェーン・コーナー，金子典代，鬼塚哲郎，生島嗣，山田創平，辻宏幸，佐藤未光，張由紀夫，砂川秀樹，後藤大輔，塩野徳史，岳中美江，市川誠一：Middle-aged and older gay men, married men, and HIV: Summary of the epidemiology, social research and implications for education and support interventions，第21回日本エイズ学会，2007年，広島.

27) 金子典代，山本正弘，佐藤未光，鬼塚哲郎，日高庸晴，市川誠一：携帯電話を用いたゲイ・バイセクシュアル男性の社会的ネットワークとHIV感染リスクに関する調査，第 21 回日本エイズ学会，2007年，広島.

28) ジェーン・コーナー，金子典代，鬼塚哲郎，生島嗣，佐藤未光，張由紀夫，辻宏幸，後藤大輔，塩野徳史，山田創平，砂川秀樹，岳中美江，市川誠一：MSM & HIV testing: Analysis and evaluation of the international literature - What are the implications for Japan?，第21回日本エイズ学会，2007年，広島.

29) 鬼塚哲郎，佐藤知久，山田創平，日高庸晴，健山正男，山元泰之： MSM 集団はHIV/AIDS 対策において hard-to-reach population か？－コミュニティ規模調査後のMSM向け予防戦略を検討する，第21回日本エイズ学会，2007年，広島.

30) 市川誠一，木村博和，塩野徳史，狩野千草，金子典代，福山由美：保健所でのHIV抗体検査事業のありかたを考える－ターゲット層を意識した効果的な検査相談提供のために－，第 66 回日本公衆衛生学会自由集会，2007，愛媛.

31) 金子典代，山田創平，日高庸晴，小堀栄子，川畑拓也：厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究推進事業国民向け研究成果発表会（個別施策層への HIV／エイズ対策における学際的連携の可能性－若手研究者の研究事例報告を中心に），2007年，広島.

32) 鬼塚哲郎，山田創平，日高庸晴：MSM 集団における HIV/AIDS 予防対策の現状と課題，大阪大学大学院健康政策学各論/社会環境医学セミナー（市民向け公開講座），2007年，大阪.

別表 1. 2007 年度コミュニティペーパー＜SaL+＞の配布実績

期間	配付された施設 (昨年度の数値)	送付団体・個人 (昨年度の数値)	配付された部数 (昨年度の数値)	働いたボランティア のべ数(昨年度の数値)
2007 年 4 月	192 店舗(192 店舗)	26 団体(22 団体)	6697 部(6354 部)	26 名(35 名)
5 月	192 店舗(194 店舗)	26 団体(22 団体)	6537 部(6329 部)	24 名(27 名)
6 月	186 店舗(193 店舗)	26 団体(23 団体)	6642 部(6352 部)	25 名(25 名)
7 月	186 店舗(194 店舗)	27 団体(24 団体)	6597 部(6472 部)	12 名(26 名)
8 月	185 店舗(193 店舗)	27 団体(25 団体)	6447 部(6356 部)	14 名(11 名)
9 月	183 店舗(184 店舗)	27 団体(26 団体)	6242 部(6147 部)	25 名(16 名)
10 月	185 店舗(188 店舗)	29 団体(26 団体)	6223 部(6372 部)	23 名(13 名)
11 月	187 店舗(189 店舗)	31 団体(26 団体)	6572 部(6422 部)	17 名(20 名)
12 月	190 店舗(192 店舗)	30 団体(26 団体)	6567 部(6497 部)	24 名(29 名)
2008 年 1 月	189 店舗(190 店舗)	30 団体(26 団体)	6507 部(6522 部)	21 名(23 名)
2 月	193 店舗(190 店舗)	30 団体(26 団体)	6817 部(6572 部)	28 名(28 名)
2007 年 4 月～ 2008 年 2 月	2068 店舗 (月平均 188 店舗)	309 団体 (月平均 28 団体)	71533 部 (月平均 6503 部)	239 名 (月平均 22 名)

別表 2. Cafe Chat プラグラム実施状況

開催日	プログラム	参加者数(スタッフ数)	内 容
2007 年 3 月	・「ヤリたい男の顔☆カラダ」 ・STI 勉強会「ネットで見てみる STI」	15 名 (6 名)	顔写真カードや全身パネルを使用してイケル顔やそそるカラダの部位について意見交換。使用資材◆顔写真カード、全身パネル、付箋。 STI 勉強会◆MASH 大阪制作の STI 情報サイト「Safer Sex Gide」を参加者と閲覧。閲覧のポイントや気になる症状がある場合の対処法などを共有した。
4 月	・「その気になっちゃう♪スキンシップ」 ・STI 勉強会「みんなの、僕のセーファーセックス」	14 名 (7 名)	王様ゲームの要領でスキンシップゲームを実施し、エロいスキンシップとは何かをグループディスカッション。それを基に指令カードを作成し、再度王様ゲームの要領で実践した。使用資材◆割り箸、カード。STI 勉強会◆セーファーセックスという言葉から連想されることをカードに 1 ワード記述。それを 3 回繰り返した。それを基にグループディスカッションを行い、多様性についての意識喚起の機会とした。
5 月	・「初快感」 ・STI 勉強会「この症状何っスか！？」	10 名 (6 名)	5W1H を基に性行為時（定義は自由）に初めて快感体験を得た際のことを、紙に記述し、意見交換。使用資材◆記述用紙。STI 勉強会◆症状の出やすい STI について、写真を見ながら意見交換と適宜解説を行った。
6 月	・「突撃！隣のセックス！」 ・STI 勉強会「梅毒」	18 名 (3 名)	既存のゲイ SEX の HOW TO DVD を流し、カフェ形式で運営。その映像を目にした人に質問紙を配布し、記述しながら SEX についての意見交換を行った。使用資材◆DVD、パソコン、記述用紙。STI 勉強会◆MASH 大阪作成の梅毒について解説したリーフレットを会場に設置し、それを基に解説を行った。

7月	・「Net でうまくイっちゃった☆」 ・STI 勉強会「ハッテン七つ道具」	8名 (4名)	２グループに分けて参加者自ら設定した架空のプロフィールを作成し、グループ同士でインターネットチャットを行った。使用資材◆MSN メッセンジャー、PC2 台、ホワイトボード。STI 勉強会◆セックスで使用する道具を準備し、手に取りながら意見交換を行った。場所によって必要なものや、持ち歩く際の留意点について解説した。
8月	・「コンドーム博覧会」	16名 (7名)	素材や厚さ、大きさなどの違う様々なコンドームと粘度や容器の違うローションを会場に点在させ、持ち帰りが可能なカフェを運営した。また、アンケートを配布し、それを記入しながら意見交換。　使用資材◆コンドーム、ローション、記述用紙。
9月	・「夏に通り過ぎた男（イケメン）たち」 ・STI 勉強会「セーファーセックス」	10名 (7名)	夏にちなんだキーワードを設定したレーダーチャートを使用。それに記述されたものを基に意見交換。その後、夏の体験談についてのフリートークを行った。使用資材◆レーダーチャート。STI 勉強会◆セーファーセックスという言葉から連想されることをカードに１ワード記述。それを３回繰り返す。それを基にグループディスカッションを行い、多様性についての意識喚起の機会とした。
10月	・「Safer Sex Cafe」	16名 (7名)	イベント PLuS+での展示物として、セーファーセックスという言葉から連想される言葉を自由に紙に記述してもらった。Safer Sex について考えたり、話をしたりすることが、作品を作る、ということを通して共有できた。使用資材◆A3 用紙、絵の具、ペンなど。
11月	・「大好き！」 ・STI 勉強会「Safer Sex Info 紹介」	15名 (6名)	SEX だけではなく、自分が日頃好んでいるものを記述し、それを基に２グループに分けて意見交換を行った。使用資材◆記述用紙。STI 勉強会◆MASH 大阪が運営する STI 情報サイトのリニューアルに伴い、携帯版を利用して閲覧解説等を行った。
12月	・「セックス川柳☆」	57名 (6名)	MSM のセックスにまつわる川柳を参加者に詠んでもらい、それを基にセックスの話題がされることを醸成した。STI やセーファーセックスに関連する歌もあり、書かれた川柳を会場に展示することでそれを参考にしたり、話のネタにする来場者が多く見られた。歌は計 83 句集まり、これを次月開催のカルタ会でカルタとして使用する。 使用資材◆記述用紙、筆ペン、ペン。
2008年 1月	・「ゲイ春！ セックスカルタ会2008」	13名	MSM のセックスにまつわる川柳を内容としたカルタ会を行った。STI に関するものを折り込み、適時解説を行った。読み手はドラァグクイーンに依頼した。伝統的かつ単純な遊びなので、参加者全員が気兼ねなく参加でき、盛り上がった。
2008年 2月	・「コンドーム＆セックス・カフェ」	32名	参加者がコンドームに手で触りながらセックスについて意見交換した。同時にアンケートを行い、その結果をリアルタイムでプロジェクションする工夫も。

別表 3. dista 利用状況-2007 年度（12 月末迄）

期間	MASH 大阪 業務 利用者	イベント来場者（うち初来場者）	貸出し利用者	ふらっと来た人（うち初来場者）	相談・情報入手等（うち初来場者）	合計	稼働時間
2007 年 3 月	55 名	158 名(16 名)	0 名	649 名（68 名）	13 名（5 名）	875 名	202.0 時間
4 月	70 名	170 名（8 名）	0 名	387 名（17 名）	15 名（5 名）	642 名	173.0 時間
5 月	106 名	225 名(19 名)	0 名	473 名（36 名）	19 名（5 名）	823 名	209.0 時間
6 月	103 名	149 名(32 名)	0 名	496 名（19 名）	6 名（0 名）	754 名	193.0 時間
7 月	93 名	150 名(19 名)	0 名	500 名（25 名）	10 名（4 名）	753 名	196.0 時間
8 月	115 名	156 名(20 名)	39 名	526 名（23 名）	2 名（0 名）	838 名	208.0 時間
9 月	168 名	159 名(12 名)	0 名	521 名（62 名）	8 名（5 名）	856 名	199.0 時間
10 月	194 名	371 名(85 名)	0 名	462 名（42 名）	30 名（27 名）	1057 名	173.0 時間
11 月	51 名	177 名(24 名)	0 名	485 名（32 名）	15 名（7 名）	728 名	184.0 時間
12 月	60 名	217 名(20 名)	0 名	364 名（17 名）	7 名（3 名）	648 名	165.0 時間
2008 年 1 月	44 名	124 名(26 名)	0 名	381 名（7 名）	4 名（2 名）	648 名	167.0 時間
2007 年度	1004 名	1898 名 (265 名)	39 名	4595 名 (280 名)	116 名 (58 名)	7747 名	1867.0 時間
月平均	100.4 名	189.8 名 (26.5 名)	3.9 名	459.5 名 (28.0 名)	11.6 名 (5.8 名)	774.7 名	188.9 時間

別表 4. 来場者数年度別推移と稼働時間

年度	合計	月平均
2003 年度	3436 人	286.3 人
2004 年度	5910 人	492.5 人
2005 年度	6187 人	515.5 人
2006 年度	8402 人	700.2 人
2007 年度（2008 年 1 月末迄）	7747 人	774.7 人

別表 5. 主なイベント・教室などの参加者数

◆カフェイベント◆	頻度・会期		平均参加者数
東方美男（中国茶カフェ）	隔月 1 回	奇数月第 1 土曜日	65.5 人
café SMILE（映像カフェ）	隔月 1 回	偶数月第 1 土曜日	41.0 人
café chat（勉強会）	月 1 回	毎月第 2 土曜日	18.2 人
café chat（カフェ）			39.3 人
CAMP!（映画カフェ）	月 1 回	毎月第 3 土曜日	22.7 人
Saloon de Oni（ワインカフェ）	月 1 回	毎月第 4 土曜日	33.0 人
◆教室・講座関係◆			
手話教室	月 2 回	第 1・3 木曜日	6.9 人
韓国語教室	月 1～2 回	随時	6.7 人
サンバ教室	8 月～10 月	随時	4.0 人
◆展覧会◆			
白雪姫展	10 月 2 日～10 月 14 日		104 人
犬義展	10 月 16 日～10 月 28 日		227 人
ぼくたちの未来展	10 月 30 日～11 月 11 日		35 人
台東区男色春画展	11 月 13 日～11 月 25 日		27 人

別表 6. 相談件数の推移

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
2004年度	1件	3件	4件	3件	0件	1件	0件	0件	0件	3件	3件	0件	18件	1.5件
2005年度	2件	2件	0件	4件	1件	5件	1件	1件	1件	1件	0件	1件	19件	1.6件
2006年度	6件	10件	4件	0件	1件	7件	1件	3件	3件	6件	3件	5件	49件	4.0件
2007年度（2008年1月末迄）	5件	7件	23件	15件	9件	7件	19件	5件	5件	0件	-	-	95件	9.5件

別表7. 若年層ネットワーク構築支援プログラム＜step＞

期日	イベント	参加者
2007年3月24日	お花見	34人
5月3日	カフェ step	53人
7月29日	納涼祭 in dista	12人
8月18日	真田山プールツアー	12人
11月3日	PLuS+打ち上げ	51人
2008年1月12日	カフェ step	33人
2月16日	真田山スケート大会	10人
2007年度合計	7イベント	205人

別表 8. 研究事業の実施状況総括

プログラム関連の事業継続	・ ドロップインセンターdista	ほぼ計画通りに執行されたが、利用者の増加は前年度に比べ1割増にとどまった
	・ コミュニティペーパーSaL+の事業継続	計画通りに執行されたが、中高年向けの情報発信媒体の創出が望まれた
	・ 若年層のネットワーク育成 Step の事業継続	計画通りに執行された
	・ STI 勉強会 Café Chat の事業継続	内容、参加者数とも向上がみられた
アウトリーチ関連	・ 新たな商業施設との連携	新世界地区での新規開拓が課題として残った
アドボカシイ関連の事業継続	・ 行政との協働事業の展開	地方自治体（大阪府・大阪市・京都府）との連携が順調に推移
	・ CBO との連携事業の展開	大阪地域検査環境の向上に向け連携が大幅に強化された
研究関連	・ プログラムの効果評価	バー精密調査、STI 勉強会スタッフインタビュー調査が実施された
	・ ニーズアセスメント	ミナミ地区、新世界地区利用者層規模調査が実施された
学会等での情報発信	日本エイズ学会	演題発表（2題）を行った MSM 関連シンポジウムを企画・運営した
	日独シンポジウム	演題発表（2題）を行った
	第8回アジア太平洋地域エイズ国際会議（8th ICAAP）	演題発表（2題）を行った
	財・エイズ予防財団研究成果発表会	予防啓発イベント（PLuS+）でフォーラムを開催した ドロップインセンター活動報告を行う予定
	独・国際協力機構「甘粛省 HIV/エイズ予防対策プロジェクト」	ドロップインセンターにて活動報告 現地にて MASH 大阪活動報告

厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策研究事業
男性同性間のHIV感染対策とその評価に関する研究

福岡地域における同性間のHIV/STI感染予防啓発の普及促進に関する研究

分担研究者：山本政弘（独立行政法人国立病院機構九州医療センター）
研究協力者：森田朋樹、新納利弘、濱田史朗、牧園祐也、橋口卓、阿部甚兵、北村紀代子
(Love Act Fukuoka) 井上緑（独立行政法人国立病院機構九州医療センター）

研究要旨

地方都市におけるゲイコミュニティに対する啓発普及のモデルとして、福岡地域のゲイコミュニティに対する啓発普及の試行を行った。今年度は特に、新しくオープンしたコミュニティセンターを中心とし、研究活動の可視化に伴う新しい啓発の試みや、ソーシャルネットワークを考慮した層別啓発戦略の構築を試みた。また今年度も、ゲイコミュニティにおけるアンケート調査を行ない、研究活動効果の評価を行なった。

A. 研究目的

近年、都市部だけでなく、九州のような地方においても感染拡大は留まるところを知らないような状況となってきている(図 1)。九州医療センターにおける累計受療状況を図 2 に、新規に感染が判明した患者の解析を図 3 に示すが、特に地方においても、最近の新規感染判明者のほとんどは男性同性間の性交渉によるものであり、男性同性間の性交渉における予防啓発が急務となってきている。本研究は、地方都市における男性同性間の HIV 感染対策とその評価を目的としている。

B. 研究方法

平成 19 年度は、従来から実施している「知識および行動変容への展開に関する啓発活動」を継続しつつ、以下の研究活動を実施した。

1. コンドームアウトリーチ
2. コミュニティペーパー「season」
3. コミュニティセンター「haco」開設による効果とソーシャルネットワークを考慮した層別啓発戦略の構築
4. 行政との連携
5. 性意識、知識、性行動、検査行動調査

各々について、プログラムの目的、方法、実施結果、考察を以下に述べる。

C. 研究結果

1. コンドームアウトリーチ

1-1. 目的と方法

福岡のゲイコミュニティにおいて、コンドーム使用率を上げるために必要な環境を作ることを目的とし、平成 16 年度より住吉・春吉を中心としたゲイコミュニティ商業施設を中心に、コンドームの配布を継続して実施している。パッケージを独自にデザインし、ゲイコミュニティへ向けたメッセージを同封したオリジナルコンドームの作成により、コミュニティとのさらなる密接な関係の構築とピックアップ率の向上を目指した。また、コミュニティキーパーソ

ンの協力により、MSM が多く集まるゲイナイト（クラブイベント）、スポーツイベント等における配布も行った。配付方法としては、コミュニティセンターhacoを基点とし、1ヶ月に1回程度の配布を実施した。

最近の九州医療センター受診者の解析より、新規感染判明者のほとんどが MSM であり、年齢分布では 30 才前後にピークがある。その一方で 40 才以降の中高年で感染判明した患者も多く、さらにこれらの中高年層では情報も届きにくく、予防行動や受検行動も少ないため、AIDS 発症して初めて感染が確認される患者が多いとされ、中高年層へのアウトリーチの重要性が再確認されている。そこで通常のコンドームアウトリーチに加え、中高年 MSM をターゲットとしたフケ専（中高年向け）バーのピックアップ率増を狙い、中高年向けコンドーム（「つけませう」コンドーム）を製作、配付した（図 4）。

さらに近隣の地方小 MSM コミュニティとのネットワーク構築のため、平成 17 年度より福岡市内だけでなく、北九州小倉地域へのコンドームアクセスの展開を継続している。福岡市から程近い北九州市にも、対象となる MSM 向け商業施設が 16 軒程あり、博多とは異なるコミュニティを形成している。

1-2. 配布結果

対象地域は、福岡県北九州市小倉地区で、バー13軒、ハッテン場3軒にアウトリーチした。配布数は表1の以下のとおりである。

表 1　アウトリーチ配布実績

第 1 回	4 月 15 日	630 個	小倉
第 2 回	4 月 29 日	1,950 個	
第 3 回	6 月 10 日	2,350 個	
第 4 回	7 月　8 日	2,020 個	
第 5 回	8 月 13 日	200 個	ｸﾗﾌﾞｲﾍﾞﾝﾄ
第 6 回	8 月 26 日	2,160 個	
第 7 回	10 月　6 日	660 個	小倉
第 8 回	10 月　7 日	200 個	ｸﾗﾌﾞｲﾍﾞﾝﾄ
第 9 回	10 月　7 日	2,200 個	
第 10 回	11 月 17 日	200 個	ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ大会
第 11 回	1 月 18 日	2,070 個	
	合計	14,640 個	

1-3. 考察

フケ専（中高年向け）店舗の中で自主的にコンドーム補充をする店舗もみられるようになり、コミュニィ内でも手の届きにくかった中高年層へのコンドームアウトリーチの効果が見え始めて来ている。

平成 19 年度で配布開始から 4 年目を迎え、現状把握の必要性から、今後配布活動を行なっている商業施設での実態調査を行ない、効果評価を行なう予定である。バーに関しては、設置していたコンドームディスペンサーの設置継続の有無の確認、発展場に関しては一回の配布に対してのコンドームのピックアップ数および自店での購入設置の有無などの聞き取り調査、ホスト店ではコンドームの設置場所および配布コンドームを客・ホストのどちらが多く使用するのか、などのアンケート調査を行ない、次年度配布の検討や効果評価を積極的に実施できる環境を整備していく。

今後もイベント等への介入・配布など、よりコミュニティに向けた活動の継続を行いながら、協力施設の拡充や、バー・発展場各店への設置方法の指導等を行なっていく予定である。

今後、地方小コミュニティにおける当事者主体の啓発活動立ち上げのモデルとなりうる小倉地域へのアウトリーチについては、小倉でのキーパーソンとの連携が重要な課題になると考えられる。当年度では難しかった小倉地域への配布活動を積極的に行うためには、小倉コミュニティでの単独イベントのサポートなどを通じ、配布協力が可能な地域内キーパーソンの育成が重要である。

2. コミュニティペーパー「season」

2-1. 目的と方法

以前よりMSM予防啓発におけるコミュニティペーパーの有効性は実証されており、今年度もコンドームアウトリーチと並行して配付継続するとともに、後述するコミュニティセンターとの相乗効果を検討した。

2-2. 結果

発行部数は以下のとおりである（表2)。

表2　Seasonの発行実績

Season No	発行部数
#10	4000冊
#11	3500冊
#12	3500冊

2-3. 考察

コミュニティセンターのオープンにより、LAFの活動そのものがより可視化されるようになった。これとの相乗効果にて、「season」への認知向上が起こり、結果として協力者（取材の承諾、寄稿者）などが増加し、CBOとコミュニティの連携がより亢進された。

3. コミュニティセンター「haco」開設による効果とソーシャルネットワークを考慮した層別啓発戦略の構築

3-1. 目的と方法

平成19年より、福岡市内のゲイコミュニティ内にコミュニティセンター「haco」が開設され、この場所を中心とした啓発活動を開始した（図5、6)。そこでコミュニティセンター「haco」開設に伴うCBO活動の可視化が起こったが、このことにより福岡地区におけるCBO啓発活動にどのように変化があったのかを解析する。さらにコミュニティセンター「haco」における啓発活動においては、ソーシャルネットワーク研究から得られた情報をもとに啓発対象を層別に分類し、それぞれに対する啓発戦略を構築した。

ソーシャルネットワーク研究のデータからは、MSMコミュニティはCBOを中心に考えると以下のように層別化されると思われる(図7)。

第0層：CBOまたは予防行動が十分にできる層

第1層：予防に興味のある層

第2層：CBOに接点はあるが予防に興味のない層

第3層：コミュニティに接点はあるがCBOに接点のない層

第4層：コミュニティとの接点もない、いわゆるhard-to-reach層

さらにソーシャルネットワーク研究の解析より、第0層に近づくほどより予防行動をとることがわかっている。これらにより、コミュニティセンター「haco」においては各層別に対象を絞り、それぞれをよりCBOへと近づけることを目的とした活動を以下のように行った。

①第4層、第3層を第2層へ向かわせる活動

今までCBOに接したことのない人、接する機会がなかった人が、CBOに接触できることを目的としている。

→＜午後ティー＞＜ゆるりラウンジ＞
＜ライブ＞＜展示会＞など

②第3層、第2層を第1層へ向かわせる活動

CBOへの接触がない層や、あっても予防への興味の少ない層へ予防に興味を持ってもらうことを目的としている、基本的な啓発もの。

→＜TALK＞＜ライフプランニング講習会＞

③第1層または第0層に向けた活動

予防に興味のある層に対して、正確な知識を伝える少し専門的なもの

→＜Dr YAMAMOTOの生で聞いてよ！＞

3-2. 結果

①第4層、第3層を第2層へ向かわせる活動

＜午後ティー＞

第1回　5月20日　来場者数　11人

第2回　6月17日　来場者数　1人

MASH大阪のdistaでのプログラム「café chat」を参考に、啓発色を最低限におさえ敷居を低く設定することにより、予防啓発というものに対しあまり関心を示さない、主に若年層の来場を狙った。

簡単なお菓子（市販）と飲み物を用意、来場者とおしゃべりをし、頃合いを見て、seasonバックナンバーの啓発情報をスタッフがリーティング。来場者の意識向上を狙った。

＜ゆるりラウンジ＞＜hacoライブ＞＜展示会＞など

地元キーパーソン主催のイベント会場として場所を提供することにより、CBOへの接触がない層やあっても予防への興味の少ない層へ、コミュニティセンターへのアクセスや認知、そして予防啓発資材へのアクセスや活動の認知向上を目的とした。

②第3層、第2層を第1層へ向かわせる活動

＜TALK＞　平成19年7月1日

初心者向け（第3層、第2層）のしゃべり場的勉強会である。HIV やセクシャルヘルスに関連する映画の鑑賞を行い、その後感想などを語り合うという継続可能な形式を模索した。

＜ライフプランニング講習会＞平成 19 年 12 月

ピアの臨床心理士による過去、現在の自分を振り返り、将来の理想のライフスタイルや職業などをより具体的にイメージさせることにより、将来に理想実現に繋がる現在の自身のセクシャルヘルスに関する性行動の在り方を考える会である。

③第1層または第0層向けた活動

＜Dr YAMAMOTOの生で聞いてよ！＞

予防に興味のある層対象に具体的な知識を提供している。

Vol 1 「HIV感染後の生活について」

平成19年7月8日　参加者14名

Vol 2 「ちょっとあそこがへん」

平成19年10月7日　参加者14名

上記のプログラムの実績を表3、4に、実施光景を図8、図9に示した。

表3　展覧会、展示会の実績

開催期間	展覧会・展示会	来場者数（期間中）
4月22日－5月27日	my first safer sex 02	132名
8月23日－8月25日	Loner展（ポストカード展）	135名
10月5日－10月27日	博多あやや展	146名

表4　啓発プログラム・イベントの実績

開催日		啓発ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ・ｲﾍﾞﾝﾄ名	参加者数
5月	20日	午後ティー Vol.1	18名
6月	17日	午後ティー Vol.2	10名
	22日	とんちライブ Vol.1	10名
7月	1日	TALK Vol.1	4名
	8日	Dr 山本の生で聞いてよ！ Vol.1	14名
	21日	ゆるりラウンジ Vol.1	73名
	22日	とんちライブ Vol.2	18名
8月	4日	携帯ｱﾝｹｰﾄ結果報告会	12名
	25日	ゆるりラウンジ Vol.2	60名
9月	8日	映画「初戀」上映会	16名
	9日	LAF ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｽﾀｯﾌ説明会	9名
	15日	KURO ライブ	29名
	16日	ゆるりラウンジ Vol.3	15名
	22日	DJ くつわだﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ	21名
	29日	お茶会「秋の夜噺」	19名
10月	7日	Dr 山本の生で聞いてよ！Vol.2	14名
	20日	ゆるりラウンジ Vol.4	59名
	27日	博多あやや ファンの集い	23名

11月	11日	ﾗｲﾌﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞ講習会	6名
	17日	ゆるりラウンジVol.5	12名
12月	1日	エイズデー映画上映会	10名
	16日	ｸﾘｽﾏｽｱｺｰｽﾃｨｯｸﾗｲﾌﾞ	46名
	21日	ゆるりラウンジVol.6	14名

なお、本年度のコミュニティセンター「haco」来場者総数は958名で、月別の来場者数を表5に示した。時間帯別の来場者数をみる午後8時～9時に最も多く、11時ごろにも来場している（図10）。

表5 コミュニティセンター「haco」来場者数

期間	月別来場者数
4月	47名
5月	85名
6月	60名
7月	166名
8月	135名
9月	167名
10月	146名
11月	97名
12月	55名
合計	958名

3-3. 考察

コミュニティセンター「haco」の開設と、ソーシャルネットワーク研究結果から導きだされた層別啓発戦略を用いて啓発活動を行なった。その結果、まず活動の可視化に伴う認知度の上昇がみられ、それに伴い、コミュニティ内外との連携が大きく増進された。またコミュニティ内のhard-to-reach 層（情報の届きにくい層）に対しても認知度の向上がみられ、それらの層が今後CBOの啓発活動や資材との接点を持つことによる予防行動の向上が期待される。

4.行政との連携

今後の長期的な連携および啓発活動継続のため、本年度も地元行政との共同イベントを計画した。初期より多セクションの集まりであるセクシャルヘルス懇談会(5/10、6/13）を開催し、エイズデーイベントの企画立案(11/8)を県や市と共同で行なった。

これにより、エイズデーイベントへの地元コミュニティの早期介入が実現し、行政によるエイズデーイベントに haco 開催の（MSM に特化した）イベントを盛り込むことができた。

5.性意識、知識、性行動、検査行動調査

5-1. 目的と方法

本年度もコミュニティにおける啓発活動の効果評価の一環として、性意識、知識、性行動、検査行動など調査解析を行なった。

イベント等に参加したコミュニティ構成者を対象とし、無記名式のアンケート調査で41名の回答があった。

5-2. 結果

平成15年～平成19年のアンケート結果を図11～図20に示した。回答者数は平成15年が60名、平成16年が63名、平成17年が63名、平成18年が90名、平成19年が41名である。前年度までと比較した場合、平成19年の調査結果は大きな変化がないものの、ややコンドーム使用率で増加傾向が認められた。

5-3. 考察

イベント等に参加したコミュニティ構成者だけのデータであり、またサンプル数も少ないため、かなりのバイアスがかかっているものと思われるが、行動変容に関してはまだ不十分であり、今後さらなる啓発活動が必要である。

なお今回のアンケートはコミュニティセンターでのイベント時のアンケート調査であり、前年度までのクラブイベントなどの時のアンケートとは若干対象が違っている。前年度までの対象と比較すると、より CBO やコミュニティセンターに近い層が多く含

まれているものと推測される。そのため、年齢層も若干上昇しており、さらに予防行動もよりよい傾向がみられる。これらのことからもコミュニティ内の各層をより CBO やコミュニティセンターへ近づけることが、行動変容につながるという啓発戦略の裏付けともなっていることが示唆される。

D. 考察

九州医療センターの新規感染判明者の殆どが MSM で、年齢は 30 才前後にピークがあるが、40 才以降の中高年で感染判明した患者も多い。これら中高年層は情報も届きにくいことから、中高年 MSM をターゲットとしたコンドーム（「つけませう」コンドーム）を製作、配付した。自主的にコンドーム補充をする店舗もみられるようになり、コミュニィ内で届きにくかった中高年層へのコンドームアウトリーチの効果が見え始めて来ている。

アウトリーチ活動については、商業施設での実態調査を行ない、設置していたコンドームディスペンサーの設置継続の確認、ハッテン場に関しては一回の配布に対してのコンドームのピックアップ数および自店での購入設置の有無などの聞き取り調査などを行ない、次年度配布の検討や効果評価を積極的に実施できる環境を整備していく予定である。

また、小倉地域へのアウトリーチについては、小倉でのキーパーソンとの連携が重要と考えられ、小倉コミュニティでの単独イベントのサポートなどを通じ、配布協力が可能な地域内キーパーソンの育成が必要と考える。

コミュニティセンター「haco」のオープンは LAF の活動そのものを可視化することになり、加えて「season」の認知が向上し、取材の承諾や寄稿者が増加するなどの効果が見られた。昨年度から実施したソーシャルネットワーク調査の解析から、LAF のスタッフ（第 0 層）に近い者ほど予防行動をとっていることがわかり、コミュニティセンター「haco」では各層別に対象を絞った活動として、①第 4 層、第 3 層を第 2 層へ向かわせる活動、②第 3 層、第 2 層を第 1 層へ向かわせる活動、③第 1 層または第 0 層に向けた活動を検討してきた。その結果、活動の可視化に伴う認知度の上昇がみられ、それに伴い、コミュニティ内外との連携が大きく増進された。またコミュニティ内の hard-to-reach 層（情報の届きにくい層）に対しても認知度の向上がみられ、それらの層が今後 CBO の啓発活動や資材との接点を持つことで予防行動の向上が期待されるものと考える。

E. 結語

地方の MSM コミュニティにおける啓発活動においては、特にコミュニティセンターのような活動が目に見える状況を作り出すことは非常に有効であることが言える。今後もこのような活動を継続していくことが、効果的な予防を行なっていく上で非常に重要なことと言えるが、そのためには行政の積極的参加が必要不可欠である。個々人のボランティア精神だけに頼った活動では、近い将来活動自体がバーンアウトしていくことは火を見るより明らかである。行政によるさらなる参加支援が、可及的速やかに求められている。

また同じ MSM 予防啓発活動においても、対象を絞った啓発が望ましいことは言うまでもないが、今回われわれは特にソーシャルネットワーク研究に基づいた MSM コミュニティの層別化を試み、各層に対象を絞った啓発を試みた。今後これらの啓発の効果の評価も行なっていく予定である。

F. 発表論文等

研究論文等

欧文

1) Rumi Minami, Masahiro Yamamoto, Soichiro Takahama, Tomoya Miyamura, Hideyuki Watanabe, Eiichi Suematsu: RCAS1 induced by HIV-Tat is involved in the apoptosis of HIV-1 infected and uninfected CD4+ T cells, Cellular Immunology, 243, 2006, 41- 47

2) Hiroyuki Gatanaga, Shiro Ibe, Masakazu Matsuda, Shigeru Yoshida, Tsukasa Asagi, Makiko Kondo, Kenji Sadamasu, Hiroki Tsukada, Aki Masakane, Haruyo Mori, Noboru Takata, Rumi Minami, Masao Tateyama, Takao Koike, Toshihiro Itoh, Mitsunobu Imai, Mami Nagashima, Fumitake Gejyo, Mikio Ueda, Motohiro Hamaguchi, Yoko Kojima, Takuma Shirasaka, Akiro Kimura, Masahiro Yamamoto, Jiro Fujita, Shinichi Oka, Wataru Sugiura: Drug-resistant HIV-1 prevalence in patients newly diagnosed with HIV/AIDS in Japan, Antiviral Research, 75, 2007, 75- 82

3) Hiroyuki Gatanaga, Tsunefusa Hayashida; Kiyoto Tsuchiya, Munehiro Yoshino, Takeshi Kuwahara; Hiroki Tsukada, Katsuya Fujimoto, Isao Sato, Mikio Ueda, Masahide Horiba, Motohiro Hamaguchi, Masahiro Yamamoto, Noboru Takata, Kimura Akiro, Takao Koike, Fumitake Gejyo, Shuzo Matsushita, Takuma Shirasaka, Satoshi Kimura, Shinichi Oka.: Successful efavirenz dose reduction in HIV-1-infected individuals with cytochrome P450 2B6 *6 and *26, Clinical Infectious Diseases, 2007, in press

国際学会発表

1) Rumi Minami, Yamamoto Masahiro, Horita Asuka, Miyamura Tomoya, Izutsu Kensaku, Suematsu Eiichi: Human herpesvirus 8 DNA load in leukocytes of HIV-1 infected patients: Correlations with thrombocytopenia, 7th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific, Aug 24, 2007, Srilanka.

2) Ichikawa Seiichi, Satoh Mioo, Utsumi Makoto, Onizuka Tetsuro, Yamamoto Masahiro, Kimura Hirokazu: Preventive Enlightenment by Gay CBO in Japan, 7th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific, Aug 24, 2007, Srilanka.

3) Noriyo Kaneko, Masahiro Yamamoto, Kyung-Hee Choi, Yasuharu Hidaka, Seiichi Ichikawa: Cell Phone Survey Using RDS to Investigate MSM's Social Networks and HIV Risk Behaviors in Japan, 7th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific, Aug 24, 2007, Srilanka.

4) Mori Masahiko, Kogane Hideki, Makie Toshio, Takahama Soichiro, Hasegawa Yoshikazu, Uehira Tomoko, Ueta Chisato, Yamamoto Yoshihiko, Shirasaka Takuma: Clinical Features of the Elderly Japanese Infected with HIV, 7th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific, Aug 24, 2007, Srilanka.

国内学会発表

1) 山本政弘：シンポジウムHIV陽性者の治療認識(Treatment Literacy)- 医療現場と自助活動の連携・協働の可能性を探る- 医師の立場から見た治療情報の提供，第21回日本エイズ学会，平成19年11月28日，広島